

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】第1部門第2区分
 【発行日】令和4年12月6日(2022.12.6)

【公開番号】特開2022-59655(P2022-59655A)
 【公開日】令和4年4月13日(2022.4.13)
 【年通号数】公開公報(特許)2022-066
 【出願番号】特願2022-24369(P2022-24369)
 【国際特許分類】

A 6 3 F 5/04(2006.01)

10

【FI】

A 6 3 F 5/04 6 5 1

A 6 3 F 5/04 6 2 0

【手続補正書】

【提出日】令和4年11月28日(2022.11.28)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

20

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

内部抽せん手段と、

遊技区間として、通常区間と有利区間と、

有利区間における総差数に関する値を記憶可能な所定記憶手段と、

「N」個のリールとを備え、

「N」個のリールが定速回転している状況下において、フロントドアが閉鎖している状況で設定キースイッチがオンであることを示す信号が入力されているときに第1のストップスイッチの操作が受け付けられた場合には、第1のストップスイッチに対応するリールを停止するための励磁出力を所定期間に亘って実行可能とし、

30

「N」個のリールが定速回転している状況下において、第1のストップスイッチの操作と第2のストップスイッチの操作とが同時に受け付けられた場合には、第1のストップスイッチに対応するリールを停止するための励磁出力を前記所定期間に亘って実行可能とし、第1のストップスイッチに対応するリールが停止し、第2のストップスイッチに対応するリールが定速回転している状況下において、第1のストップスイッチの操作と第2のストップスイッチの操作とが同時に受け付けられた場合には、第2のストップスイッチに対応するリールを停止するための励磁出力を前記所定期間に亘って実行可能とし、

内部抽せん手段により所定抽せん結果が決定され、「N-1」個のリールが停止している状況下で、「N」個目のリールに対応するストップスイッチの操作が受け付けられて、遊技媒体の付与が行われる所定図柄組合せが停止表示される遊技(以下、「第1の遊技」と称する。)において、「N」個目のリールに対応するストップスイッチの操作が受け付けられた場合は、「N」個目のリールを停止させるための励磁出力を前記所定期間に亘って実行可能とし、「N」個目のリールが停止した後も当該励磁出力を当該所定期間が経過するまで継続可能とし、

40

前記第1の遊技において、「N」個目のリールに対応するストップスイッチの操作が受け付けられた後であって、「N」個目のリールを停止させるための励磁出力を行う前記所定期間が経過する前の所定のタイミングで「N」個目のリールに対応するストップスイッチが離された場合は、前記所定期間が経過した後に遊技媒体の付与を実行可能とし、

通常区間では、所定の遊技状態となる場合を有さず、

50

有利区間では、所定の遊技状態となる場合を有し、
 有利区間の遊技において、遊技における差数に関する値（「差数に関する値」とは、1遊技における遊技媒体の付与数から遊技媒体のベット数を減算した値とする。以下同じ。）と所定記憶手段に記憶されている総差数に関する値とに基づいて所定記憶手段に記憶されている総差数に関する値を更新可能とし、

有利区間における総差数に関する値が有利区間の終了条件を満たした場合は、有利区間の終了処理を実行可能とし、

有利区間の遊技において、再遊技の付与が行われる特定図柄組合せが停止表示される場合は、遊技媒体の付与数と遊技媒体のベット数を用いて所定記憶手段に記憶されている総差数に関する値は更新しないが、有利区間における総差数に関する値が有利区間の終了条件を満たしたか否かの判断を行う

10

ことを特徴とする遊技機。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0005

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0005】

本発明は、

内部抽せん手段と、

20

遊技区間として、通常区間と有利区間と、

有利区間における総差数に関する値を記憶可能な所定記憶手段と、

「N」個のリールとを備え、

「N」個のリールが定速回転している状況下において、フロントドアが閉鎖している状況で設定キースイッチがオンであることを示す信号が入力されているときに第1のストップスイッチの操作が受け付けられた場合には、第1のストップスイッチに対応するリールを停止するための励磁出力を所定期間に亘って実行可能とし、

「N」個のリールが定速回転している状況下において、第1のストップスイッチの操作と第2のストップスイッチの操作とが同時に受け付けられた場合には、第1のストップスイッチに対応するリールを停止するための励磁出力を前記所定期間に亘って実行可能とし、第1のストップスイッチに対応するリールが停止し、第2のストップスイッチに対応するリールが定速回転している状況下において、第1のストップスイッチの操作と第2のストップスイッチの操作とが同時に受け付けられた場合には、第2のストップスイッチに対応するリールを停止するための励磁出力を前記所定期間に亘って実行可能とし、

30

内部抽せん手段により所定抽せん結果が決定され、「N-1」個のリールが停止している状況下で、「N」個目のリールに対応するストップスイッチの操作が受け付けられて、遊技媒体の付与が行われる所定図柄組合せが停止表示される遊技（以下、「第1の遊技」と称する。）において、「N」個目のリールに対応するストップスイッチの操作が受け付けられた場合は、「N」個目のリールを停止させるための励磁出力を前記所定期間に亘って実行可能とし、「N」個目のリールが停止した後も当該励磁出力を当該所定期間が経過するまで継続可能とし、

40

前記第1の遊技において、「N」個目のリールに対応するストップスイッチの操作が受け付けられた後であって、「N」個目のリールを停止させるための励磁出力を行う前記所定期間が経過する前の所定のタイミングで「N」個目のリールに対応するストップスイッチが離された場合は、前記所定期間が経過した後に遊技媒体の付与を実行可能とし、

通常区間では、所定の遊技状態となる場合を有さず、

有利区間では、所定の遊技状態となる場合を有し、

有利区間の遊技において、遊技における差数に関する値（「差数に関する値」とは、1遊技における遊技媒体の付与数から遊技媒体のベット数を減算した値とする。以下同じ。）と所定記憶手段に記憶されている総差数に関する値とに基づいて所定記憶手段に記憶され

50

ている総差数に関する値を更新可能とし、

有利区間における総差数に関する値が有利区間の終了条件を満たした場合は、有利区間の終了処理を実行可能とし、

有利区間の遊技において、再遊技の付与が行われる特定図柄組合せが停止表示される場合は、遊技媒体の付与数と遊技媒体のベット数を用いて所定記憶手段に記憶されている総差数に関する値は更新しないが、有利区間における総差数に関する値が有利区間の終了条件を満たしたか否かの判断は行うことを特徴とする。

また、本発明の変更例では、以下の解決手段によって上述の課題を解決する（カッコ書きで、対応する実施形態の構成を示す。）。なお、本発明の変更例に係る発明は、後述する当初発明 1 ~ 63 のうち、当初発明 59 に相当する。

10

本発明の変更例に係る発明（第 39 実施形態）は、

所定の遊技状態（役物未作動時）において、少なくとも第 1 規定数（規定数「3」）又は第 2 規定数（規定数「2」）で遊技可能とし、

ストップスイッチ（42）の操作態様を報知しない第 1 区間（通常区間）と、

ストップスイッチの操作態様を報知可能な第 2 区間と（有利区間）

を備え、

ストップスイッチの操作態様に応じて遊技価値の付与数が異なる図柄組合せを停止表示可能とする特定抽選結果（小役 A 01 ~ A 24、小役 B 01 ~ B 24 の当選）となる場合を有し、

第 2 区間において、前記特定抽選結果となった場合に、遊技者に有利なストップスイッチの操作態様（正解押し順）を報知可能な特定報知制御状態（AT）を備え、

20

第 1 規定数の遊技では、役抽選結果に応じた所定の演出を実行可能とし、

第 2 規定数の遊技では、役抽選結果に応じた所定の演出を実行せず、

第 1 規定数かつ特定報知制御状態の遊技では、特定報知制御状態での遊技価値の総付与数、及び第 2 報知制御状態での遊技回数に関する表示を更新可能とし、

第 2 規定数かつ特定報知制御状態の遊技では、特定報知制御状態での遊技価値の総付与数の表示を更新可能とし、かつ、特定報知制御状態での遊技回数に関する表示を更新しないことを特徴とする。

30

40

50